

海運の重要性を学校教育の場で
～鎌倉市の小学校で出前授業を実施～

当協会は、海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、海事施設等の見学会や出前授業、資料提供の実施等に取り組んでおります。

10 月 24 日（金）に、鎌倉市立第一小学校 5 年生 128 名を対象に出前授業を実施しましたので、その模様をお知らせします。

はじめに、身近な食品や衣料品を例に、身近な物の多くが外国から船で運ばれていることを説明し、資源の少ない島国である日本は、海上輸送による貿易なしには成り立たないことを知ってもらいました。日本の貿易量の 99.5%は船で運んでいることをグラフで見せると、児童からは一斉に「えー！！」と驚きの声があがりました。

その後は、身の回りの多くの物を運ぶ「コンテナ船」を軸に、授業を進めました。

まずはコンテナの大きさや色、種類、運べる荷物等について、クイズを交えて説明しました。なかでも、コンテナ模型の中に入っている「サッカーボール」と「ポテト」のおもちゃから、ドライコンテナ（常温）とリーファーコンテナ（温度調節可能）の違いを考えてもらうクイズでは、たくさんの手が挙がり大変盛り上がりました。さらに、同校の近隣にある「鶴岡八幡宮」の参道と、全長 400mのコンテナ船を比較した画像を見せ、コンテナ船の大きさを実感してもらいました。また、ガントリークレーンでの荷役にも触れ、荷役の様子を動画で見てもらい、港は重要な「物の玄関口」であることを紹介しました。

授業の最後には、数名のグループに分かれて、コンテナ船の航路を白地図に書き込んでもらうワークを実施しました。「島の間を通る方が早そう」「ここは陸地だけど運河があるんじゃないの？」「（太平洋は）まっすぐ突っ切るのが早い」等、どの航路が最短距離かを真剣に話し合う姿が印象的でした。



出前授業の様子



グループで航路を考える児童

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう、引き続き活動を展開してまいります。

以上